

福山大学附属“内海生物資源研究所”の設立について

福山大学学長 宮地 茂

瀬戸内海は典型的な閉鎖海で、古来沿岸住民の交通を支え、またその地勢がもたらす温暖な気候と卓絶する明眉な風光から、同地域は独特の文化と産業を醸成して来ました。

備後福山は、東西に長い瀬戸内海の中央沿岸に位するが、その南西の瀬戸内海には、芸予東諸島と称して、多数の島嶼が存在する。因島もその一つで、現在では因島大橋を経て福山市から陸続きになっている。古くは村上水軍の據点として著名なこの島は、実は私の出生地である。

本学は創立以来16年、現在では経済学部、工学部、薬学部の三学部11学科を擁し、三蔵五訓を建学の精神として今日に至っている。その詳細は省略するが、要は健全な精神をもち、実践力に富む青年の養成を目指している。しかし社会が益々複雑化するにつれ、これからの人材育成には、同時に情操からのみならず、科学的見地から自ずと環境に配慮が及ぶことが要請されている。本学では学生に稲作の一端や植物飼育を経験させているが、さらにいろいろの生物に接する機会を与えたいと思っていました。

一方、本学工学部には昭和61年に生物工学科を開設したが、同学科に実習用動物を飼育する施設まで整えるには至っておらず、これに代わる有益な実習科目を模索する必要がありました。

他方、前に述べたように因島は私の出生地であるが、この島の文化や産業に、些かなりと貢献する大学教育施設を設置したいものと、かねて構想していた。

On the Foundation of the Research Institute of Marine
Bioresources, Fukuyama University

Shigeru Miyaji, President of Fukuyama University

たまたま因島市大浜の県有地の割譲をうける機会に恵まれ、同地に本学附属の“内海生物資源研究所”を設立することにした。燧灘に面した絶景の海岸に建つこの研究所は、教育・研究には勿論、広く教職員、学生の研修にも利用できるように設備し、また同時に地域住民、特に青少年に興味をいだかせることを希い、大型水槽を設け瀬戸内海の種々の魚を飼育してこれを一般に公開することにしました。

“内海生物資源研究所”設立の目的が、十分に末永く達せられることを希って己みません。